

令和7年度第2回神奈川県公立高等学校協議会
議 事 録

1 日 時 令和7年7月31日(木)
10時00分～11時00分

2 場 所 神奈川県私学会館 4階 講堂

3 出席委員等 田沼 光明 竹内 博之 柏木 照正

永川 尚文 岡田 直哉

宮村 浩文 山本 大(代理) 鈴木 史洋

田中 賢 渡貫 由季子

會田 勉 加賀美 博之

(敬称略)

座長（田中委員）

定刻となりましたので、「令和7年度第2回神奈川県公立高等学校協議会」を開催します。

私学振興課長の田中と申します。よろしくお願いします。本日はご多用の中、お越しいただきありがとうございます。昨日は急な津波警報ということで、各教育委員会さんや各学校さんにおかれても、色々と対応にバタバタされたことと思いますけれども、そのような中、お越しいただきありがとうございます。開催に当たり、「神奈川県公立高等学校協議会の設置及び運営に関する要綱」第4条第2項に基づき、座長の互選をお願いしたいと思います。従来、私立学校の所管課長である私学振興課長が座長を務めさせていただいております。今年度も同様に私学振興課長が座長を務めさせていただくということで、ご異議ありませんでしょうか。

全委員

異議なし。

座長（田中委員）

ありがとうございます。それでは、私が座長を務めさせていただきます。よろしくお願いします。なお、本協議会は原則公開とされております。取材、傍聴者等については、既に入室していただいておりますので、ご承知おきください。それでは議事に入ります前に、今年度新たに委員になられた方、及び欠席された委員についてご紹介いたします。

なお、委員構成については「資料1」として委員名簿を配布しています。こちらも併せてご覧ください。

新たな委員は、神奈川県私立中学高等学校協会 監事 永川尚文委員です。

永川委員

よろしくお願いします。

座長（田中委員）

神奈川県私立中学高等学校協会 理事 岡田直哉委員です。

岡田委員

よろしくお願いします。

座長（田中委員）

なお、私、私学振興課長である田中も、今年度より委員に就任しましたので、よろしくお願いいたします。

つづいて、新たにオブザーバーになられた2名をご紹介します。

神奈川県私学保護者会連合会の代表 加賀美博之オブザーバーです。

加賀美オブザーバー

加賀美でございます。

座長（田中委員）

神奈川県公立中学校長会の代表 小林祐樹オブザーバーですが、本日はご欠席となっています。

本日はご欠席となっている委員もご紹介させていただきます。神奈川県私立中学高等学校協会 理事の川名稔委員、神奈川県PTA協議会の代表 山崎裕子オブザーバー、川崎市教育委員会事務局学校教育指導課長 新田委員はご欠席となりますが、本日は代理出席として、山本指導課担当課長にお越しいただいております。昨年度に引き続き、ご参加いただいております委員、オブザーバーの方々におかれましては、今年度もどうぞよろしくお願いします。

毎回、この協議会の冒頭に頭撮りをする時間を設けているということで、写真撮影の時間としたいと思いますので、よろしくお願いします。

（写真撮影後）

ありがとうございました。それでは、引き続き進行したいと思います。このたび「かながわ定時制・通信制・高校教育を考える懇談会」から7月28日付けで要請文書が提出されています。要請文書の写しを机上に配付していますのでご確認ください。文書を提出された方から口頭陳述の申し入れがありましたので、議事に入る前に陳述の機会を設けたいと思いますがご異議ございませんでしょうか。

全委員

異議なし。

座長（田中委員）

ありがとうございます。それでは懇談会の代表の方、会議の時間もありますので、恐れ入りますが3分以内で陳述をお願いいたします。時間となりましたら、こちらから終了を促させていただきます。よろしくお願いします。

陳述者

おはようございます。「かながわ定時制・通信制・高校教育を考える懇談会」の保永博行と申します。（資料説明）

座長（田中委員）

ありがとうございました。それでは、次第に従い、議事を進めさせていただきます。まず、「1 議題」の「令和8年度の『高等学校生徒入学定員計画』の策定について」です。例年、当協議会において、翌年度の公私の入学定員計画に係る協議を行い、公私間の合意を得た上で、その結果を「神奈川県公立高等学校設置者会議」に報告します。協議に入る前に、私

から昨年度までの定員協議の経過等について、簡単にご説明します。定員計画につきましては、平成22年度から3年間は、公立中学校卒業予定者の6割を全日制公立高校の入学定員とする「基本比率」により策定していましたが、平成25年度定員計画策定時に見直しを行いました。その際、比率による定員割り振り方式を採用した経緯や、これまでの実績、進学率の推移等を踏まえた上で、「公立の定員枠のみを決める方式」から、「公私がともに責任を果たす方式」へと見直す必要性について議論がなされました。

その結果、平成25年度定員計画は、公私がこれまでの実績、施設や教員の規模等を踏まえて、全日制進学率の向上の視点のもとに、公私各々が実現を目指す定員目標を定め、その実現に向けて最大限努力することを記載して策定しました。これにより、全日制進学率は概ね9割を維持し、不本意入学者数も減少するなど一定の効果がみられたことから平成26年度定員計画以降、同様の方式により策定してきました。昨年度までの経過については以上です。

続いて、令和7年度入学者選抜の結果を踏まえて、昨年度に策定した計画の検証を行いたいと思います。それでは、令和7年度入学者選抜結果について、事務局から資料の説明をお願いします。

事務局

高校教育課から資料3～資料3－5を説明

座長（田中委員）

ありがとうございました。では協議に入ります。ただいま、令和7年度の入学者選抜結果について説明がありましたが、昨年度に策定した定員計画を踏まえて、公立・私立それぞれに、入学者選抜結果に対する評価をお願いしたいと思います。まず公立側からお願いいたします。

渡貫委員

令和7年度入学者選抜では、2年続けて公立中学校卒業者が減少する中で、公立としては前年から550人減らし、定員目標を39,300人とさせていただきました。令和7年度県内公立高校の進学者数が、先ほど説明がありましたように38,486人であり、前年と比較して647人減少しました。定員目標には814人届くことができず、公立としては厳しい数字であったと認識しております。以上です。

座長（田中委員）

ありがとうございます。それでは、私学側の評価をお願いいたします。

田沼委員

私学といたしましても、14,900人を目標としましたが14,773人、公立中学3年生だけを考えますと至らなかったのですが、私学全体の進学者としては増えており、15,890人という数字になりますので、まずまずではなかったかなというふうに思っております。なかなかこれから厳しい世の中になってまいります。少子化が進んでまいることになると思います

ので、そのところはこれから公私で協議していかなければならないだろうというふうに思っております。

先ほちょっとお話がありましたように、全日制進学率がだいぶ低下しておりますけれども、これは通信制への進学者が増えているということが連動すると思われます。

学習の多様化ということが進んでいるということは認識しておりますが、その問題の成果を上げることがこれからの課題になってくると思います。

またもうひとつ、ここの議題かどうか分かりませんが、近年ですと教員不足、これは大変な問題だろうと思います。定員を策定して、4月になったら先生がいなくて、なんていう状態になったら大変なことになると思いますので、私はここの協議会の議題かどうかはわかりませんが、全体の大きな問題として対処はしていかななくてはと思っている次第でございます。

座長（田中委員）

ありがとうございました。ただいま公立側、私学側からそれぞれ入学者選抜結果に対する評価と、その他ご意見をいただきましたけれども、この評価、さらにご意見等ありましたらお願いします。

竹内委員

私学側ですが、残念ながら県内14,900人という目標は、達成できなかったです。でも私学は県外から結構入学して、目標定員14,900人に対して入学者が15,890人、この傾向はここ数年続いているので、県外からの入学者を加えると目標定員を結構上回る状況になっていることは事実です。というわけで、来年は立てた県内の定員目標については達成できるよう、私学側も頑張っていきたいと思っています。以上です。

座長（田中 委員）

ありがとうございます。ほかにご意見ありましたらお願いします。

全委員

なし

座長（田中委員）

よろしいでしょうか。ありがとうございます。そういたしましたら、続きまして、定員計画の策定方式についてです。令和7年度定員計画は「公私各々が実現を目指す定員目標を設定する方式」に変更してから13回目となる計画でした。この方式について、あらためてご意見をお伺いしたいと思います。いかがでしょうか。まず公立側からご意見をいただければ。

渡貫委員

全日制進学率の概ね9割の維持という点では、この方式は一定の成果があったものと考えています。

座長（田中委員）

ありがとうございます。方式につきまして、どうでしょう、三市のご意見も伺えたらと思います。

宮村委員

横浜市です。今までのお話にありましており、2年続けて中学校卒業者が減っていく、その中で定員設定が実に難しい状況であるというふうに思います。それでも90%に近い進学率があるということは昨年度までの策定方式が適正に用いられていると考えます。

座長（田中委員）

ありがとうございます。続きまして川崎市さんお願いします。

川崎市 山本指導課担当課長

川崎市です。生徒数のそもそもの減と、先ほどのお話にもありましたが、中学3年生の進路選択がますます多様化しているという中にあっても、適正な策定をしていただいているというふうに考えております。

座長（田中委員）

ありがとうございます。横須賀市さんお願いします。

鈴木委員

横須賀市としましても、昨年度までの策定方式について一定の成果があったと認識しておりますので、踏襲するのがよいと思います。

座長（田中委員）

ありがとうございました。今、公立側から意見をいただきましたので、続きまして私学側から意見をいただければと思います。

田沼委員

私学といたしましても、概ね90%の実現ということもございますし、この方式でよかったのかなというふうに思っております。

竹内委員

むしろこの方式でないと、以前のような公立さん6割の中でやっていくと少子化の中で私学の定員がどんどん減っていってしまうような状況にもなりますので、この方式はぜひ続けて欲しいと思います。

座長（田中委員）

ありがとうございます。私学側のご意見よろしいでしょうか。ありがとうございます。も

しオブザーバーの方の意見があればお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(オブザーバー意見なし)

公立側私学側ご意見ともに、昨年度までの策定方式について、一定の成果があったという評価をいただいたと考えますが、令和8年度定員計画においても、引き続きこの策定方式を継続することについては、いかがでしょうか。

全委員

異議なし

座長（田中委員）

よろしいでしょうか。では、令和8年度定員計画の策定にあたっては、昨年度までの策定方式を継続する方向であることを確認させていただきました。ありがとうございます。

続きまして、令和8年度定員計画の内容についてです。資料の4「令和8年度の『高等学校生徒入学定員計画』の策定について（案）」に沿って協議をさせていただきます。資料4－2以下が資料の4に記載した内容の参考となる資料ですので、まずは資料4－2から資料4－10について事務局から説明をお願いします。

事務局

高校教育課、私学振興課から、資料4－2～資料4－10を説明

座長（田中委員）

ありがとうございました。それでは協議に入りたいと思います。資料4をご覧ください。

資料4の令和7年度定員計画をベースに、「年度」の数字や「公立中学校卒業予定者数」などを令和8年度用に修正するとともに、参考資料のデータを時点更新したものです。

この資料に基づき、令和8年度定員計画に記載する内容について、確認をさせていただきます。

資料4の1ページをご覧ください。

初めに冒頭の2段落目の「感染症」に関する部分についてです。新型コロナウイルス感染症の感染拡大を踏まえ、令和3年度定員計画から、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた対応についての文を追加したところですが、令和5年5月に感染症法上の位置づけが5類に移行したことを受け、感染症の発生状況によっては入学者選抜の実施にあたり必要な検討を行う旨の記載をしております。令和8年度定員計画においても、引き続きこの内容を記載することについて、ご意見をお聞かせください。公立側からお願いします。

渡貫委員

このままでいいと思います。

座長（田中委員）

ありがとうございます。私学側ご意見お願いします。

田沼委員

引き続きお願いしたいと思います。

座長（田中委員）

ありがとうございます。それでは他になれば、この部分については、継続していくということにしたいと思います。続きまして、「1 基本的な考え方」についてです。

この部分は、例年継続してきた「三つの視点」を引き続き尊重しつつ、平成30年度に「（3）その他」の「私学」の役割」として、「学則で定められた収容定員を踏まえた安定的な学校運営に努め」という文言を追加したところです。令和8年度定員計画の策定に向けて、この「基本的な考え方」について、ご意見ありますでしょうか。公立側からお願いいたします。

渡貫委員

公立としては特にございません。

座長（田中委員）

ありがとうございます。私学側お願いします。

田沼委員

私学としてもこれでお願いしたいと思います。

竹内委員

私学の役割は、『建学の精神に基づく特色ある教育を展開し、学則で定められた収容定員を踏まえた安定した学校運営をして県民ニーズに応える』です。ここを私学側は重要と捉えています。

中学3年生が増えても減っても私学の定員に大きなずれがあってははいけないと思います。私学の定員は学則に定められているということを知っておいてください。お願いします。

座長（田中委員）

ありがとうございます。他にご意見ありますでしょうか。

全委員

なし

座長（田中委員）

ありがとうございます。では、この「1 基本的な考え方」についても特段修正はなく、了承されたものといたします。続きまして資料2ページの「2 定員計画の策定」についてです。

この部分は、「令和８年度の定員計画の方式」や「実現を目指す定員目標設定の考え方」などを記載しています。定員計画の策定方式につきましては、先ほど、昨年度の方式を継続する方向性を確認したところです。

また、公私の募集計画について、例年10月までに公表することを記載しております。この「２」の部分について、ご意見ありましたらお願いいたします。公立側からお願いいたします。

渡貫委員

この形でお願いできればと思います。

座長（田中委員）

ありがとうございます。私学側お願いいたします。

田沼委員

この形でよろしくお願いいたします。

座長（田中委員）

ありがとうございます。他にご意見ありませんでしょうか。よろしいでしょうか。

（意見なしを確認）

ではこの「２」の部分につきましても、特段修正なくこの形としたいと思います。続きまして、資料３ページ「３ 今後の総合的な対応」についてです。この部分は、「１ 基本的な考え方」に記載した各項目の具体化を目標として、

- (1) 経済的な課題を抱えた生徒の受け入れ対策
- (2) 不登校生徒等の受け入れ対策
- (3) クリエイティブスクール
- (4) 定時制等の受け入れ対策
- (5) その他の対策

を記載しています。この部分につきまして、公立側からご意見をいただければと思います。

渡貫委員

このまま記載をしていただければと思います。

座長（田中委員）

ありがとうございます。このことにつきましては、三市のほうからのご意見をいただけたらと思います。

宮村委員

横浜市です。高校で学ぶ生徒が多様化している中で、ここに挙げられる項目というのは今後引き続き考えられることだと思います。横浜市においても魅力ある学校づくりを進め

る中で、しっかりと対策していきたいと考えております。

座長（田中委員）

ありがとうございます。川崎市さんお願いします。

川崎市 山本指導課担当課長

川崎市でございます。川崎市としても同様にしていいただければと考えております。

座長（田中委員）

ありがとうございます。横須賀市さんお願いします。

鈴木委員

横須賀市としましても引き続きこういった対策を行っていききたいと考えております。この記載のままでお願いします。

座長（田中委員）

ありがとうございます。私学側のご意見お願いいたします。

田沼委員

このままでお願いしたいと思います。特に不登校生徒の受け入れがこれから必要になってくると思います。よろしくお願いします。

座長（田中委員）

ありがとうございます。その他ご意見よろしいでしょうか。公立側、私学側、オブザーバーの皆さまよろしいでしょうか。

（意見なしを確認）

それでは「3 今後の総合的な対応」につきましても、ここに記載のまま、特段修正なしということにしたいと思います。続きまして、資料4ページに記載のある「4 昼間の時間帯で学ぶ進学率（昼間進学率）の活用」となります。この部分には、昨今の中学生の進路選択の多様化等を踏まえ、「全日制進学率」と併せて「昼間の時間帯で学ぶ進学率」という指標を活用することを例年記載しています。ここにつきまして、ご意見ありましたらお願いいたします。公立側からお願いいたします。

渡貫委員

引き続き記載をしていただけたらと思います。

座長（田中委員）

ありがとうございます。私学側からお願いいたします。

田沼委員

昼間進学率も大変重要な話として必要だと思いますので、引き続きよろしくお願いします。

座長（田中委員）

ありがとうございます。他によろしいでしょうか。

（意見なしを確認）

ではこの「4」につきましてもこの形としたいと思います。続きまして資料の5ページ「5 令和8年度公立高等学校生徒全日制入学定員の目標設定の考え方及び計画」についてです。ここは、この計画のまとめの部分となり、公立・私立の具体的な入学定員の目標人数を記載する箇所になります。

資料には、公立・私立とも人数を記載する部分を空欄にしておきまして、この部分に令和8年度の目標人数を入れていくことになります。これにつきましては、本日、令和7年度入学者選抜の結果を確認したところですので、公立・私立双方が持ち帰っていただき、この数字についてしっかり検討をしていただき、次回の協議会において協議させていただきたいと考えますが、よろしいでしょうか。

全委員

異議なし

座長（田中委員）

ありがとうございます。それでは、本日の協議の結果について整理させていただきます。公立・私立それぞれの立場からのご意見をいただきましたが、令和8年度定員計画につきましては、昨年度に続き、「公私が自らの責任において実現を目指す定員目標を設定する方式」により策定することで、公私の考え方は一致していることを確認しました。そこで公私それぞれが、全日制進学率の向上を推進するために目指す、令和8年度入学者の定員目標をご検討いただいた上で、もう一度お集まりいただくようお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

委員一同

異議なし

座長（田中委員）

ありがとうございます。では、大変恐縮ですが、9月の設置者会議への報告を目指して、次回の協議会については、8月下旬に開催する方向で調整したいと思います。どうぞよろしくお願いします。次第の「1 議題」についての協議は以上となりますが、最後に何か全体を通してご意見ある方がいらっしゃいましたらお伺いいたします。

委員一同

なし。

座長（田中委員）

よろしいでしょうか。それでは「2 その他」に移りたいと思います。その他として皆さまから何かご発言があればお願いいたします。

委員一同

なし。

座長（田中委員）

よろしいですか。ありがとうございます。それでは、以上をもちまして本日の議事はすべて終了いたしました。委員の皆さま、オブザーバーの皆さま、大変お忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。これをもちまして、令和7年度第2回神奈川県公私立高等学校協議会を終了させていただきます。誠にありがとうございました。お疲れ様でした。